

JIS

マンガン鉱石－化合物定量方法

JIS M 8231 : 2005

(JFA/JSA)

平成 17 年 3 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 鉄鋼技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	木原 諄 二	日本大学
(委員)	大河内 春 乃	東京理科大学
	大橋 守	新日本製鐵株式会社
	小澤 宏 一	JFE スチール株式会社
	鍛地 楯 生	財団法人日本海事協会
	加藤 碩	ステンレス協会
	國府 勝 郎	東京都立大学
	近藤 良太郎	社団法人日本電機工業会
	佐久間 健 人	独立行政法人大学評価・学位授与機構
	三宮 好 史	社団法人日本鉄鋼連盟
	中島 將 文	社団法人日本鉄道施設協会
	長瀬 忍	高圧ガス保安協会
	福永 規	住友金属工業株式会社
	山内 学	株式会社神戸製鋼所

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 28.3.28 改正：平成 17.3.20

官 報 公 示：平成 17.3.22

原 案 作 成 者：日本フェロアロイ協会

(〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-6 東京倶楽部ビル TEL 03-3580-0841)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1573)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：鉄鋼技術専門委員会 (委員長 木原 諄二)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット産業基盤標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、日本フェロアロイ協会(JFA)／財団法人日本規格協会(JSA)から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS M 8231:1982** は改正され、この規格に置き換えられる。

改正に当たっては、日本工業規格と国際規格との対比、国際規格に一致した日本工業規格の作成及び日本工業規格を基礎にした国際規格原案の提案を容易にするために、**ISO 549:1981, Manganese ores – Determination of combined water content – Gravimetric method** を基礎として用いた。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JIS M 8231 には、次に示す附属書がある。

附属書（参考）**JIS** と対応する国際規格との対比表

目 次

	ページ
序文.....	1
1. 適用範囲.....	1
2. 引用規格.....	1
3. 定義.....	1
4. 一般事項.....	1
5. 定量方法の種類.....	1
6. 定量方法.....	2
6.1 重量法.....	2
6.2 カールフィッシャー滴定法.....	5
附属書（参考）JIS に対応する国際規格との対比表.....	12
解 説.....	17

マンガン鉱石—化合物定量方法

Manganese ores—Methods for determination of combined water contents

序文 この規格は、1981年に第1版として発行された ISO 549:1981, Manganese ores—Determination of combined water content—Gravimetric method を翻訳し、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。

なお、本体の 6.2 は我が国独自の定量方法を追加したものである。1.~5.及び 6.1 で側線又は点線の下線を施してある箇所は、原国際規格を変更している事項である。変更の一覧表をその説明を付けて、**附属書 (参考)** に示す。

1. 適用範囲 この規格は、マンガン鉱石中の化合物の定量方法について規定する。

備考 この規格の対応国際規格を、次に示す。

なお、対応の程度を表す記号は、ISO/IEC Guide 21 に基づき、IDT (一致している)、MOD (修正している)、NEQ (同等でない) とする。

ISO 549:1981, Manganese ores—Determination of combined water content—Gravimetric method (MOD)

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版 (追補を含む。) を適用する。

JIS K 0113 電位差・電流・電量・カールフィッシャー滴定方法通則

JIS M 8203 マンガン鉱石—化学分析方法—通則

備考 ISO 4297:1978 Manganese ores and concentrates—Methods of chemical analysis—General instructions からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS R 1306 化学分析用磁器燃焼ボート

3. 定義 この規格で用いる主な用語の定義は、次による。

a) 化合物 (combined water) マンガン鉱石を 105 °C から 900 °C に加熱する間に発生する水分。

4. 一般事項 定量方法に共通な一般事項は、JIS M 8203 及び JIS K 0113 による。

5. 定量方法の種類 定量方法の種類及び化合物含有率 [% (質量分率)] の範囲は、表 1 による。加熱によって、分析試料の形態 (酸化数など) が変化するおそれがある場合には、カールフィッシャー滴定法を用いる。